

「東アジア平和環境圏」の

構築を目指して

日時：2009年**11月21日**(土) 午後1時～5時

会場：明治大学駿河台校舎リバティタワー 3階 1032教室

● 記念講演

武村正義 (村山内閣大蔵大臣, 日中友好沙漠緑化協会会長)

第1部：午後1時45分～2時30分

● 基調講演

「東アジア平和環境圏」の構築を目指して

講師 **米本昌平** (東京大学先端科学技術研究センター特任教授)

第2部：午後2時30分～5時

● パネルディスカッション

パネリスト

朱 衛紅 (中華人民共和国・延辺大学理学院教授)

東アジアの環境保全と保護：函們江下流区域を中心に

D. ジュグデル (モンゴル国・モンゴル国気象水文研究所気候・環境研究センター長)

Dust storms over East Asia

朴 恵淑 (三重大学人文学部教授)

東アジアの大気環境の現状と展望

大久保彩子 (東京大学先端科学技術研究センター特任研究員)

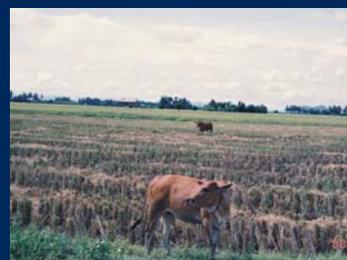
東アジアの海洋環境協力：パートナーシップの可能性

白岩孝行 (総合地球科学研究所准教授)

アムール川とオホーツク海の環境保全：日中露モの協力

コメンテーター 米本昌平, 森永由紀 (教授：教養デザイン研究科)

司会 鳥居 高 (教授：教養デザイン研究科)



「東アジア平和環境圏」の構築を目指して

今日、環境問題が地球全体にとって、極めて重要であることは言うまでもありません。これまで平和研究においては、戦争や紛争と平和、あるいは貧困や飢餓と平和の関係が論じられてきました。しかし、現在では、「平和」の状態を論じるためには、地球の気候変動問題、大気や水の汚染、自然の破壊等を、結び付けて考える必要があります。このように「平和」という概念を広義に捉え、自然、社会、文化、政治環境などを視野にいれた「東アジア平和環境圏」構想を提唱します。

● 記念講演



武村 正義

TAKEMURA Masayoshi

1934年滋賀県生まれ。東京大学教育学部・経済学部卒業。滋賀県知事（1974～1986）を経て衆議院議員（1986～2000）となる。この間、細川内閣の官房長官（1993～1994）・村山内閣の大蔵大臣（1994～1996）を歴任する。知事時代に琵琶湖の水質汚染防止、景観保護に尽力する。龍谷大学客員教授、中国の沙漠緑化運動に従事している。著書として、『小さくともキラリと光る国・日本』（1994）、『私はニッポンを洗濯したかった』（2006）等がある。

● 基調講演



米本 昌平

YONEMOTO Shohei

愛知県生まれ。東京大学先端科学技術研究センター特任教授。専門は、科学史・科学論、生命倫理、地球環境問題。京都大学理学部卒業。三菱化成生命科学研究所、科学技術文明研究所所長を経て、現在に至る。

【著書・論文】

『バイオエシックス』（講社現代新書）、『遺伝管理社会』（弘文堂、毎日出版文化賞受賞）、『地球環境問題とは何か』（岩波新書）、『知政学のすすめ』（中公叢書、吉野作造賞受賞）、『バイオポリティクス』（中公新書）

● パネルディスカッション



朱 衛紅
ZHU Weihong

延辺大学理学院地理学部教授。
工学博士。

【著書・論文】 *Ecoculture in East Asia* (Global Ecoculture Forum, 2007).
Study on Building of Strategy of Ecological Network in East-North Asia (Korea Environment Institute, 2008).
"Study on Dynamic Changes of the Jingxin Wetland in the Lower Reaches of Tumen River Based on Corona and Spot-5 Imageries" *Wetland Science* (2009.3).



D. ジュゲデル
JUGDER Dulam

モンゴル国ザブハン県生まれ。モンゴル国気象水文研究所気候・環境研究センター長。理学博士。1976年、モンゴル国立大学気象学部卒業、同大学院修了。専門分野は気象学。

【著書・論文】 Jugder D. et al., *Marketing and Economic Benefits of Meteorological Services* (Ulaanbaatar, 2006).
Dust Storms in the Gobi (Tokyo, 2009).
Jugder D. et al., "Analysis of dust storms observed in Mongolia during 1937-1999." *J. Atmospheric Environment* (37 [2003]).



朴 恵淑
PARK Hye-sook

韓国ソウル生まれ。韓国梨花女子大学・大学院修了後、筑波大学地球科学研究科に留学し理学博士取得。筑波大学、米国ヒューストン大学、三菱化学生命科学研究所勤務などを経て、2000年より三重大学人文学部文化学科学教授、学長補佐。環境分野のみならずユネスコ未来遺産委員会委員をはじめとした幅広い社会活動を展開。専門分野は環境地理学・環境教育・環境政策論。

【著書・論文】 共編著『環境快適都市をめざして—四日市公害からの提言』（中央法規、2004）。共著『四日市学—未来をひらく環境学へ』（風媒社、2005）。共編著『四日市学講義』（風媒社、2007）。



大久保 彩子
OKUBO Ayako

茨城県つくば市生まれ。筑波大学国際関係学類卒業。一橋大学大学院修了後、在スウェーデン日本国大使館に勤務（専門調査員）。東京大学大学院博士課程単位取得退学。修士（経済学）。海洋政策研究財団研究員を経て、2007年より東京大学先端科学技術研究センター特任研究員（現在に至る）。専門分野は環境政策論。

【著書・論文】 『海洋生物資源管理における生態系アプローチ適用の国際比較と日本への政策的含意』（『海洋政策研究』第7号（2009））。『海洋の持続可能な開発に向けた協力』（『海洋白書 2008：日本の動き・世界の動き』成山堂（2008））。『国際捕鯨規制をめぐるレジームの重層化と政策的相互連関』（『環境科学会誌』第20巻4号（2007））。



白岩 孝行
SHIRAIWA Takayuki

東京都葛飾区生まれ。早稲田大学教育学部卒業。北海道大学大学院環境科学研究科を経て、同大学低温科学研究所寒冷陸域科学部門（理論雪氷学分野）准教授に就任。博士（環境科学）。総合地球環境学研究所に在籍出向、研究部准教授（現在に至る）。同研究所「アムール・オホーツクプロジェクト」のプロジェクトリーダーを務める。専門分野：地理学、雪氷学。

【著書・論文】 『カムチャツカ半島の氷河に残される北部北太平洋の気候変動』（『気象研究ノート』214（2007））。『巨大魚付林：アムール川・オホーツク海・知床を守るための日中韓の協力』（『外交フォーラム』217（2006））。『環オホーツクの視点からみる知床世界自然遺産』（『地理』51-4（2006））。

森永 由紀 MORINAGA Yuki



東京都生まれ。日本女子大学家政学部卒業。筑波大学大学院地球科学研究科を経て、同大学地球科学系技官。博士（理学）。1996年より明治大学商学部、現在に至る。2008年度より、大学院修士課程教養デザイン研究科を担当。専門分野は、気候学、環境科学。

【著書・論文】 『モンゴル東部地域の気候』（長沢孝司・尾崎孝宏編著『モンゴル遊牧社会と馬文化』日本経済評論社（2008））。『モンゴル国における気象災害の早期警戒システムの構築に向けて』（『地理学評論』78（2005）共著）。"Winter Snow Anomaly and Atmospheric Circulation in Mongolia" .. Int. J. Climatol. 23. 2003. 共著。

鳥居 高 TORII Takashi



愛知県生まれ。中央大学法学部卒業。アジア経済研究所を経て、1997年より明治大学商学部、現在に至る。2008年度より、大学院修士課程教養デザイン研究科を担当。専門分野は、東南アジア地域研究、民族紛争論。

【著書・論文】 編著『マハティール政権下のマレーシアの22年』（アジア経済研究所、2006）。共編著『アジア諸国における中間層論の現在』（アジア経済研究所、2000）。『マレーシア・先進国を批判する森林資源国』（徳嶋成昭編著『発展途上国の環境問題』（アジア経済研究所、1992）。